

伊丹市文化財ボランティアの会 火曜会通信

第73号

発行日：平成29年 5月 1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

平成29年度総会

4月11日（火）中央公民館において平成29年度総会が催行された。

内田会長の挨拶に始まり、松田副会長の28年度活動報告、半澤会計の28年度会計報告が行われ、いずれも承認された。

次いで、29年度活動計画案、予算案が提案され、討議の結果、原案どおり承認された。

特記すべきは、年会費が4000円（1000円値下げ）になった事と、期中に退会された方が、7名あったのに対し、新しく入会された方が3名あり、29年度は会員数48名でスタートすることになったことである。 （山田 記）

よろしくお願いします

新しく会員になられた3名の方々に自己紹介をお願いしました。早く環境に慣れていたい、戦力になっていただける事を期待します。

荒西 克招（あらにし よしあき）

結婚以来、35年池田に住んでいましたが、2年前に伊丹の実家に戻ってきました。子どものころは清酒発祥の地と言われる鴻池（山中氏）屋敷跡や鴻池神社の広場などでよく遊んでいました。今は市の史跡に指定されている稻荷祠碑は当時、つつじや雑草



の中にあり、書かれている文字の意味など知らずに、かくれんぼや鬼ごっこで亀の石に隠れたり、乗ったりしていました。この屋敷跡には一年に一、二度、黒い車が来て、きちんとした身なりの人が降りてきて、遊んでいた私たちにお菓子をくれたことがありました。

3月で府立高校を退職するので、4月から何をしようかと思っていたところ、この文化財ボランティア養成講座のチラシを見つけ、応募しました。歴史や文化財には以前から興味はあったのですが、きちんと学ぶことがなく、わからないことも多くあり、この機会に自分の足元を見つめなおすつもりで参加しました。よろしくお願いします。

山本 康夫（やまもと やすお）



22期生として水曜日グループに入りました山本です。1才から66才まで宮の前、行基町、新伊丹、南本町と市内を転々とし現住所の中央に住んで23年になります。4月に44年間の勤めを終え第2ステージでのチャレンジについて考えていました。

① JR 伊丹～猪名野神社界隈は子供の頃からの庭でしたが、灯台下暗しのことわざ通り、案外知らない事象が多いことに気付いた。

伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。
市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願いします。
(☎ : 072-784-8090)

② 長年暮らした伊丹の住人として恩返し的なことが出来る。

という2つの理由でボランティア講座に応募しました。

趣味のひとつが旅行（国内外）なので、観光に興味がある。そして、しゃべくりが嫌いな方ではないので、軽い気持ちで応募したのですが、養成講座で少し大変さを感じ、果たしてうまくやって行けるか不安です。

先輩方のご指導、ご支援により楽しくやって行きたいと思っていますので、よろしくお願いします。

渡邊 孝（わたなべ たかし）

出身は島根県。伊丹市に移り住んで50年を超え、68才になります。

退職を機にこれから的人生、身体と頭脳を動かす文武両道をめざしたいと考え、運動は続けてきたテニスに加え、ウォーキングや街歩き。

もう一方は、以前より伊丹の歴史、文化に興味があり、伊丹市内で開催される文化講座、歴史講座等に参加しようと考え、幾つか参加しました。

その中で戦国時代から江戸時代の伊丹の「荒木村重と有岡城」「清酒発祥と丹譲が果たした伊丹の隆盛と文化」この二題は特に興味を惹かれました。

又ウォーキング講座で感じることは説明される方のイキイキとした表情と懸命さであります。

説明を受ける度に知識が豊かになる喜びと深まる興味。「多くの方とこの思いを共有したい」とも思いました。

今後、学ばさせて頂きながら、微力ながらより多くの方に「伊丹の文化、歴史」をガイドする活動のお手伝いをしたいと思っております。



第22回文化財ボランティア養成講座

史跡めぐり 神津を巡る

1月24日から始まった第22回文化財ボランティア養成講座には4名の受講生が参加され、締めくくりの「市内史跡めぐりガイド」が3月18日に行われました。

今回は有岡城跡～桑津神社～称名寺～春日神社～阿部備中守正次の墓～岩屋遺跡を巡るコースです。

当日の天候は少し寒さが和らいだ快晴で、絶好のウォーキング日和になりました。参加者は一般参加23名に関係者を加えると総勢35名で、最初の案内地の有岡城跡へ向かいました。

受講生がわずかに残っている石積みの前に立ち、有岡城と荒木村重の歴史を語ります。初ガイドは緊張するのですが、ベテランガイドのような落ち着きで説明されました。1年前に受講した私は初のガイドで旧岡田家住宅を担当したのですが、緊張のあまり資料を棒読みしていたのを思い出しました。



有岡城跡でのガイド

桑津橋を渡り、神津地域に向かいます。この地域は伊丹の文化財の中ではガイドの機会が少ない地域ですが、縄文・弥生時代の遺構や中世・近世の貴重な文化財が残されています。伊丹市内の神社建築では最古といわれる桑津神社境内社稻荷社（火明神社）、伊丹の鋳物師作の称名寺梵鐘、県指定有形文化財の春日神社本殿など、受講生は古地図や写真を使った資料を片手に、丁寧に説明されました。



春日神社本殿前でのガイド

「伊丹にこんな貴重な文化財があるとは知りませんでした」と、参加した女性から声を掛けられました。当日の朝思い立って飛び入りで参加されたそうです。「こんなふうにガイドしてもらえるのなら、また参加したい」とも話されていました。

安部備中守正次の墓を訪ね、最後はスカイパークにある岩屋遺跡のガイドで締めくくられました。冬枯れした木々の間で、早咲きの桜がピンク色の花を咲かせていました。



岩屋遺跡前でのガイド

受講生のみなさんはパークセンターで修了証書を受け取られ、養成講座を終えられました。お疲れ様でした。

今後はボランティアガイドや文化財の研究などで活躍されることを期待いたします。

(金川 記)



市内文化財めぐり 歴史ウォーキング

伊丹市景観重要建造物

東リ日本館事務所を見学

平成29年3月10日(金)、雨が心配されたが何とか晴天でまず安心。東リ見学が含まれたコースに、募集人員を超える応募があった。カリヨン前にて有岡城の惣構えについて説明後、2班に分かれて出発した。

【コース】JR伊丹・カリヨン広場～荒村寺～有岡城惣構え東側段差～東リ日本館事務所など見学～鷺塚砦跡～惣構え西側の段差～大坂道～伊丹町道路元標（長寿蔵前解散）

荒村寺では本堂にあげてもらい、ユーモア溢れるご住職の説話を聞く。ご住職の説話によると、荒木村重の菩提を弔う為のお寺であるので荒村寺としたとの事。仏前に祭られている位牌を拝ませてもらい、こちらのお寺の位牌の戒名と、堺の南宗寺の戒名の違いを説明してもらった。双方のお寺共お墓は無いとのことであった。また荒村寺の荒村とは、江戸時代の漢詩より「鄙びた寒村」の意味と言われ、精神の統一と心の安らぎを表し、仏教の教えをしているとの事である。

境内に慶応元年（1865）梶曲阜が建立した鬼貫の句碑があり、「古城や茨くろなる蟋蟀」「有岡の昔を憐れに覚えて」仏兄七久留万と刻まれている。

次に本泉寺を訪れた。伊丹一の大本堂に参加者の皆さんには感激。本堂は有岡城落城の約100年後に、伊丹の酒造家・鹿島九郎左衛門が往時の有岡城を偲び、幼き頃に祖父より聞いた話をもとに再建したそうだ。すぐそばのアイホールのガラス張りの壁面に映る本堂の姿は、有岡城の豪壮な姿を彷彿とさせる。

かつては伊丹氏の墓があったが、今は見当たらない。また境内は工事中のため、「楠木一族 正成・正行・正良」の供養塔の再建が待たれるところである。

大坂道より城下の坂を下り、城下の雰囲気を味わいながら行くと、20年前にあった惣構えの木戸口の門石柱が無くなっていた。有岡小学校を経て大坂道に戻り、鶴塚砦跡へ。民家の軒の間から、かすかに薬師堂の屋根が見え隠れしていた。有岡城の南の砦であり、野村丹後守が雑賀衆と守っていたが落城した。

大坂道と尼崎道の分かれ道に立っていた道標が、焼野の杜若寺の靈園入口に移動され、見にくく場所に立っていた。



東リ旧本館前で説明

東リの社員の方の案内で、景観重要建造物に指定された旧本館事務所(設計者・渡辺節)を見学した。大正9年竣工された大正モダンを感じさせる木造二階建ての建物である。以前の改築時に床を上げたので、約20cm低くなり、戸と階段が埋もれているのが一見してわかった。窓の説明に「滑車付引き上げ戸」のはなしになり、参加者より多数の質問が続いた。

工場内の産井八幡宮(鎮西八郎為朝の生誕地で産湯の井戸があり、母御の小笠の局が住んでいたとの伝説がある)に、お参りした。乃木將軍の胸像を見学、説明の中で350万円の値打ちのある物と聞き、2mの石柱の上の胸像を見上げた。

明治44年11月18日に、陸軍大演習が伊丹の武庫川辺で実施された。東軍の司令官は有栖川の宮、西軍は乃木將軍にて大演習。視察に後の大正天皇が行啓され、伊丹駅に下

車され、駅前通りを西へ、本町の小西家の別宅へ入宿された。そのため駅前通りは「みゆき通り・行幸通り」と呼ばれた。(現在は酒蔵通り)。JR伊丹駅前の忠魂碑の文字は乃木將軍による宅筆である。

また東リと乃木將軍の関係は、明治天皇が崩御された時、乃木將軍が静子夫人と共に殉死した時の部屋に「由多加織」の敷物が敷かれていた。東リと乃木將軍との間柄が分かり、大変興味深かった。その敷物は現在、東京乃木坂の野木神社に納められている。

由多加織は明治26年設立の寺西由多加織合名会社の初期の製品。藁纖維を横糸に綿糸を縦糸とする織物で、見学時に展示された製品を触らせてもらった。

帰路は惣構えの西側の段差を見学しながら、白雪の長寿蔵の前で解散となった。

(池田 記)

※次回の市民ガイドは、5月20日(土)に予定されています。

京・アラカルト ⑥

京の通り名・名所、名物

池田 利男

一条から十条までの名所、名物

- 一条 戻り橋(死者が生き返ったり、渡辺綱が幽霊に出会った)
- 二条 生薬屋(漢方薬の店が軒を連ねていた)
- 三条 みすや針(有名な縫い針、秀吉も日吉丸時代に行商をしていた)
- 四条 芝居小屋(南座・北座・他)
- 五条 橋弁慶(牛若丸と弁慶が出会った橋)
- 六条 本願寺(東本願寺・西本願寺)
- 七条 阿弥陀峰(豊臣秀吉の靈場)
- 八条 羅生門(平安京の正面の門)
- 九条 東寺の塔(弘法大師の寺院)
- 十条 城南宮(平安京の裏鬼門)



＜研究発表＞

昆陽下池の埋め立て・昆陽井

松田孝雄

昆陽下池の埋立て

『行基年譜』によれば行基は天平3年(731年)昆陽上池・下池を造った。『伊丹市史』では現在の昆陽池が行基の造った昆陽上池にあたると推測している。

かつて今の昆陽池(昆陽上池)の西方に池尻・山田・野間・友行・時友の5ヶ村をうるおす昆陽下池があった。しかしこの下池の姿について記された資料はほとんどない。野間村に伝わる「万覚帳」によると、慶長13年(1608年)に、昆陽村・池尻村がこの池を埋めて田畠にしたいと願い出たことがわかる。

ところが山田・野間・友行・時友の4ヶ村がこれに反対する訴えを起こしている。この池を埋められると4ヶ村は用水に困り、村々の田地が荒廃する恐れがあるという。そこで代官の手で調整が行われ、下池を埋めるかわりに次のような措置をとつて4ヶ村の昆陽下池掛りの田地に水を提供することにした。

すなわち下池からの用水が武庫川から水を引いている昆陽井の用水溝の下を潜って流れるところがある。そこが「大ゆりの樋」であるが、上を流れる昆陽井水がその隙間から大ゆりの樋に落ちるようにするのである。

さてその後寛永7年(1630年)、寛永9年(1632年)と再び論争となっている。このときは代官所の検分がおこなわれ、慶長13年に決まったようにすることが命じられ、ことは落着した。その後明暦3年(1657年)になってまたまた昆陽村は山田村以下4ヶ村に断りなく樋の付替えを行ない、すき水が落ちないようにしてしまった。そこで再び山田村以下4ヶ村は奉行所に願い出で、このときにも検分のうえ規定どおりにするよう命じられた。このような争論を繰り返した末近世前期に昆

陽井の水を分水することが定着した。

しかし寛保3年(1743年)大ゆりの地点で昆陽村・新田中野村と池尻村との間に問題が生じ、昆陽村の側から山田村以下4ヶ村に交渉がなされ、用水の供給方法を改めることで落着した。

すなわち大ゆりの樋で昆陽井のすき水を引くかわりに昆陽井の下流寺本村の正覚院前と一乘院前の2ヶ所に溝口を設け、そこから山田村へ用水を南下させること、干ばつのさいでもその溝をせき止めることはしない、この2つの溝口からだけの用水では不足のときは、ほかの溝口からも供給することとした。

図面の「字オイル」と記入のある地点に「大ゆりの樋」があったと推定されている。オイルは大ゆりが転じたものであろう。この溝は下って山田・野間・友行・時友の4ヶ村の用水になっている。



「元禄三年池尻村絵図」伊丹古絵図集成より抜粋

現在とは違う当時の治水

昆陽井の用水を山田・野間・友行・時友の4か村に供給することにより昆陽下池の役割が終わり、埋め立てられた。しかしその後も

昆陽井からの用水の供給を渋るような動きがあったのは、昆陽井の用水供給能力が十分でなく、分割供給する余裕がなかったからだろう。現在のようにダムを含む大規模な河川整備ができない当時は、河川敷は現在よりはるかに広く、大雨の度に上流から大量の土砂が流れ込み、流路は変化した。したがって河川からの安定した取水は困難である。また水路を例にあげても現在は底、両壁面ともコンクリートであるが、当時は素掘りであった。この場合水路の断面積は同じでも流速が小さくなるので、当時の水路の流量は現在に比べると小さい。したがって井の用水供給量は現在より少なく、安定した用水の供給は難しかったろうと想像される。

昆陽下池の場所

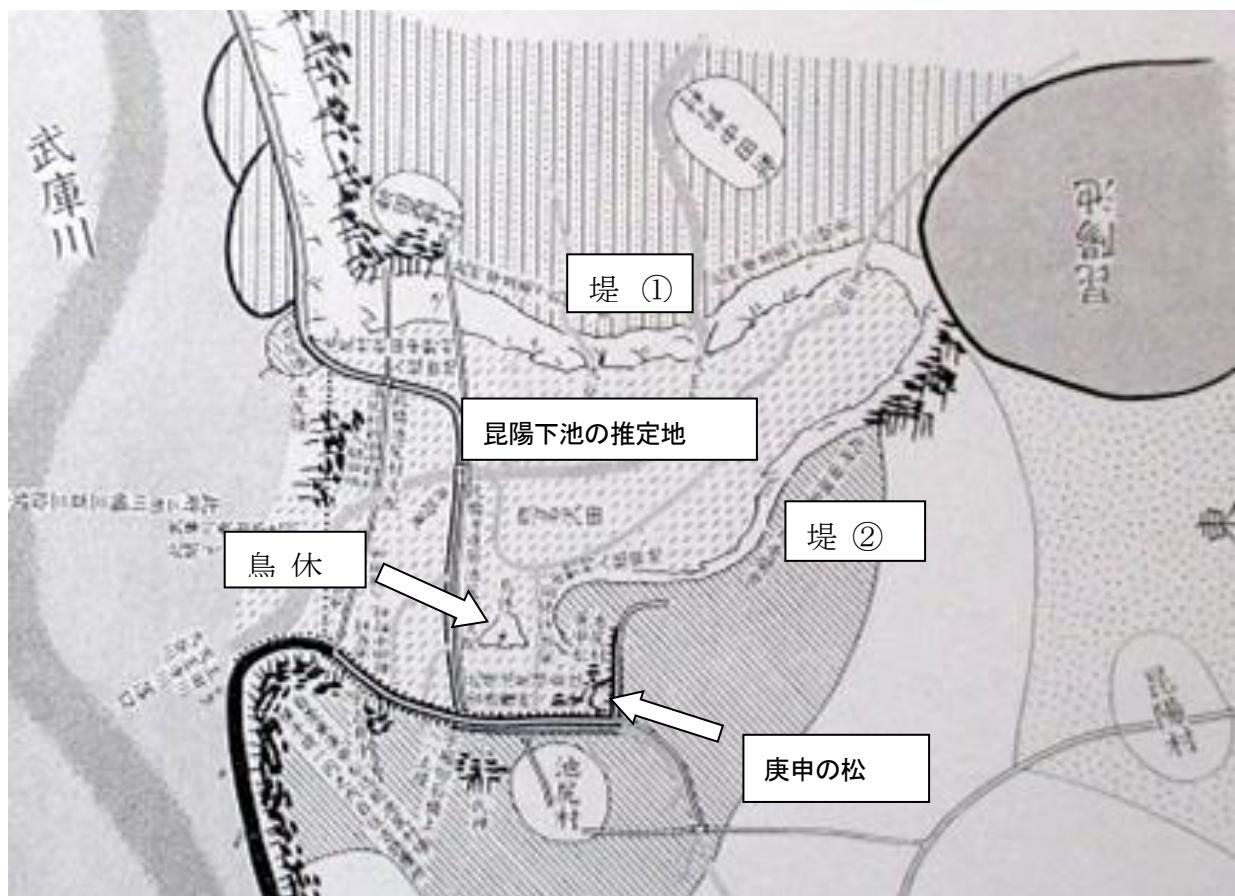
下の絵図は元文4年（1739年）池尻村と新田中野村の境の堤の修復をめぐって起きた争論に関係して作成されたものである。

大ゆりの樋は本絵図では「庚申の松」と「鳥休」の間を南へ流れる溝筋が昆陽井の下をくぐる地点であると考えられる。そうだとすれば、大ゆりの樋へと南下する溝筋と本絵図で示されている堤に囲まれたところがもと昆陽下池があったところではないかと推定される。この部分の地形は西側を除く3方が堤で囲まれており、下池を埋め立てるといつてもこの西側の堤を取り払う程度で、それ以外の堤はそのまま残されたようである。

〈伊丹古絵図集成より〉

ため池の埋め立て

下図で西側にあった堤のみが埋め立てに使用されてなくなり、埋め立ては完了したとされて



「元文五年池尻村・新田中野村境堤争論絵図」

伊丹古絵図集成より抜粋

いる。ただし元文5年(1740年)当時は残っていた堤①、堤②は現在はない。

ため池から耕作地への用水の供給は自然流下によるので、ため池の水位は耕作地より高い位置にあることが必要である。したがってため池を造る場合、基本的に池底を掘り下げて水を貯めるのではなく、池底はほぼ現状のままとして、周囲に堰堤を築いて高い水位の水を貯める構造にする。したがって下池を埋め立てる場合、埋め立て用土を他から運んで来る必要はなく、西側の堤を取り払って発生する土砂で十分まかなえたと考えられる。

昆陽井はいつ頃できた

昆陽下池は昆陽井からの用水供給により役割を終え、埋め立てられることになった。それでは昆陽井が完成したのはいつ頃だろうか。昆陽井の完成時期についての記録はない。

武庫川からの小規模な取水は以前からあつただろう。その後設備水路が改修され、下池の代替えになる用水を供給できるようになった時点で間をおかず下池埋め立てが出願された慶長13年(1608年)と考えるのが自然である。すなわち昆陽井の完成は16世紀末または17世紀初頭であると推定される。

井筋の用水供給能力はため池より大きいが、河川からの取水は洪水時に被害を受ける危険があり、水路を設けて長い距離を通水することは、ため池を設置するより技術的に難しい。これが井筋の開発が遅れた理由に挙げられる。



阪急・阪神沿線観光あるき②

伊丹郷町と老松酒造

三寒四温を繰り返す中、3月4日はすばらしい快晴。「阪急阪神沿線観光あるき(伊丹郷町と老舗酒造をたずねて)」の催しには49名のお客様を迎えるました。

阪急伊丹駅ビルリータ4階に9時25分集合し、

9時35分にスタート。猪名野神社までは参加者全員が同行するが、あとは二班体制を組んでご案内します。

A班:有岡城址→荒村寺→本泉寺→墨染寺

B班:墨染寺→本泉寺→荒村寺→有岡城址と別行動をし、岡田家で合流します。

ここで、今日の目玉である老松酒造営業企画課高橋課長の楽しい講演がありました。



岡田家酒蔵での講演

この講演で得た、ためになる話をひとつ。よく酒席の会話で「この酒は甘口か、辛口か」と話題になり、お互いの蘊蓄を披露する場面がありますが、答えはほとんどが辛口らしいですね。そもそも「甘い、辛い」の見分け方は飲んだ時に喉越しの良い、キレのある酒のことで、いわゆる一般的な味覚とは異なるらしいです。

甘口とは、喉にまとわりつくような、粘っこい酒のこと。例え、味覚では甘く感じても喉をスッと通るのは辛口。

現在は辛口が主流であり、毎年、広島で開かれる酒祭りで、全国から約1000銘柄が一堂に会しますが、この中で甘口は70銘柄程度しか無いそうです。

これからは「甘口、辛口」論議はやめよう、と呑兵衛の私は改心した次第です。

岡田家の講演のあとは、老松酒造の直売所に移動し、ここで吟醸酒、純米酒、本醸造酒の三種の酒を楽しく試飲。酒好きの人たちにとってはこの上もなく佳き日であったことでしょう。

(永野 記)

[町の小さな文化財 第12回]

口酒井の無念塚



口酒井村はもともと猪名

川が藻川と分岐する中洲にあった。天正8年(1580年)の洪水による被害のため、猪名川左岸の現在地に移転したと言われている。

春日神社参道端にある神社の標柱からさらに南側に、神津公園の古堤防の延長部を一部残したような小高い盛土の塚がある。コンクリートブロックで囲った台上に三十数体の五輪塔・石仏等が猪名川の方向、西を向いて立てられている。ほとんどが風化が進んでおり、中には破損したものがある。

現在のように機械力による大規模な治水整備がされていない昔は、洪水が頻繁に発生し、大きな被害を受けることが多かった。口酒井の下流にある田能地区には元文5年(1740年)の大洪水で漂着した犠牲者を弔う立派な宝篋印塔が建立されている。

これらの五輪塔・石仏はおそらく上流から洪水で流されたものが後に掘り起こされ、集められたのだろう。この中に自然石に「無念塚」と彫られたのがある。風化が進んでいないことから、比較的新しい時代に水難者の無念を悼んで設置したものらしい。

(松田 記)

編集後記

年ごとに足腰の衰えを自覚しなるべく歩く様心掛けてはいますが、無料バスがあると、つい市バスの誘惑に負けてしまいます。この調子では何時までガイドが続くやら。 (M.Y.)

活動記録 (2月~4月)

定例会 •2/14 (火) •3/14 (火) •4/11 (火)

案内ガイド •2/15 (水) Aコース (芦屋川カレッジ 芦屋市) •2/26 (木) Aコース (旧跡探訪会 伊丹市) •3/4 (土) Aコース (阪急阪神沿線観光歩き) •3/8 (水) Aコース (西宮市立夙川公民館 西宮市) •3/10 (金) 荒村寺と東リ旧本館 (市民ハイク) •3/19 (日) Fコース (ボイイスカウト伊丹 伊丹市) •3/25 (土) 西国街道 (播磨地区福祉まちづくり協議会 伊丹市) •3/26 (日) 有岡城址 (歩こう38会 伊丹市) •3/30 (木) Aコース (豊能町観光ボランティア協会24期 塚市) •4/7 (金) 有岡城址~昆陽寺 (豊能町観光ボランティアの会 豊能町) •4/14 (金) Aコース (ぶらぶら歩きの会 大阪市) •4/22 (土) Aコース (大阪歴史博物館友の会 大阪市) •4/29 (土) A+Bコース (神戸シレーヴカレッジ 兵庫県)

どんぐり座公演

•2/16 (木) 天神川小学校 •2/21 (火) 稲野小学校 •2/22 (水) 昆陽里小学校 •2/24 (金) 伊丹小学校老人会 •3/6 (月) 桜台小学校 •4/16 (日) 三軒寺広場

歴史ロマン体験学習支援

•2/18 (土) 蠟筆画工(2) •3/4 (土) ペンダント
•4/22 (土) 勾玉

有岡城跡の清掃 •2/28 (火) •3/28 (火) •4/25 (火)

今後の予定 (5月~7月)

定例会 5/9 (火) •6/13 (火) •7/11 (火)

案内ガイド •5/8 (月) Aコース (大西順子 加古川市)
•5/10 (水) 岡田家 石橋家 (みなわ会 宝塚市) •5/16 (火) Aコース (雨月俳句会 伊丹市) •5/20 (土) 物語北部 (市民ハイク) •5/23 (火) Dコース (自然総研 池田市) •6/4 (木) 岡田家 石橋家 (コープカルチャーセンター 大阪市) •6/15 (木) 未定 (ボランティアグループ推論 高槻市)

歴史ロマン体験学習支援

•5/20 (土) 鉛筆立て •6/3 (土) 鉛筆立て •7/8 (土) ランタン

有岡城跡の清掃 •5/23 (火) •6/27 (火) •7/25 (火)